

Coffee break



H30. 12. 13 (木)

桶売小学校長 本名 武

夜明け、梅雨明け、徹夜明け・・・「明け」は終わる状態

子どもたちにとって、「最大の言語環境は教師である。」と言われます。子どもは、毎日、その声・話、言い回しを耳にし、板書・朱筆等の文字を目にし学んでいるのですから・・・。


さて、同じ漢字が続く場合には、重複表現の匂いがします。例えば、

「頭痛が痛い」「馬から落馬する」・・・は、違和感があることと思います。では、次の表現はどうでしょう？

「一番最後の人」「断トツの1位!」「あとで後悔するなよ」「第1日目」違和感ありますか？一番後ろを「最後」、断然トップを「断トツ」、「あとで吠え面かくなよ」というのはありますが、「第1日」か「1日目」どちらか。では、次の表現はどうでしょう？

「クリスマスイブの夜」「元旦の朝」「今現在」「お中元ギフト」なども重複表現。

クリスマスイブのイブは「イブニング」のこと、元日の朝を「元旦」、今現在、お中元ギフトなどもよく目・耳にする重複表現です。平気で使っていると、子どももそうなります。

 新年によく見・聞く「新年明けまして・・・」→「明ける」は、その状態が終わることです。夜が明けたら、夜の状態が終わって「朝」であり、梅雨明けも梅雨が終わった状態。徹夜明けもしかり。新年明けはいつのこと？「新年おめでとう」か「明けましておめでとう」であり、「新年明けまして・・・」は重複する上、中元ギフトやチゲ鍋などの重複語と違い、その意味自体本来なら違ったものになってしまいかねないのです。

また、言いがち・使いがちな表現として、

「注目を集める」「過半数を超える」「被害を被る」「返事を返す」「臨時収入が入る」

これらも使うときに注意が必要です。～注目される、過半数になる、被害に遭う・・・。はがきや手紙で文末に書いてしまいがちなのは、

「お体ご自愛ください」という一文。自愛に（自：自身の体、愛：大切にする）が入っているので、単に、「ご自愛ください。」でよいのです。

重複表現から離れますが、年上・目上の方にはふさわしくない表現として、

×「ご苦労さまでした。」→○「お疲れさまでした。」

×「了解しました。」→○「分かりました。」「承知しました。」

表記について、公用文は常用漢字表を常とする学校にとって、当て字（例：ラムネあり升）は禁物です。「こどもたち」→文科省は「○子供たち」、県教委は「○子どもたち」です。

「子ども達」（こどもたつ）の達は（たつ）としか読みません。付表で「Q友達」のみ示されている。

また、漢字にすると意味が変わるものでは、

「マッチを買ってください」→（ください：Please）どうぞマッチを買って！お願い！

「マッチを買って下さい」→（下さい：Give）マッチを買って、そしてそれを私にちょうだい！

重複表現等を中心に書きましたが、敬語についてはさらに奥が深いです。教員の常識は、社会の非常識とならないためにも、何かひっかかることがあれば、調べ学んでいきましょう。

最近、漢字狩り・文字狩りなどという言葉・風潮もありますが、教職にある私たちにとって、おさえるべきことは、しっかりおさえて子どもに伝える姿勢が大事なかなと感じます

